弥生時代

名前

問1　福岡県などで出土した、表面が滑らかで機能的な形をした壺型の土器について、その形状や性質が変化した背景として最も適切なものはどれか。（2026年 北海道公立入試 類似）

1. 青銅器や鉄器が普及したことで土器が使われなくなり、儀式用の飾りとしてのみ作られるようになったから。
2. 狩猟や採集を中心とした移動生活に耐えられるよう、衝撃を吸収するためにあえて厚手に作る技術が途絶えたから。
3. 大陸から伝わった仏教の影響により、華美な装飾を避けて質素な道具を作ることが社会の決まりとなったから。
4. 稲作が普及したことで、収穫した食料の貯蔵や煮炊きといった生活道具としての使いやすさが重視されるようになったから。

問2　江戸時代に志賀島で発見された「漢委奴国王」と刻まれた金印や、3世紀の歴史書に記された卑弥呼が「親魏倭王」の称号を授かったという記述は、当時の日本と中国のどのような関係を示していますか。（2021年 茨城県公立入試 類似）

1. 中国の皇帝に臣下として礼を尽くすことで、自らの支配権の正統性を認めてもらう関係
2. 中国の皇帝が日本の優れた統治体制に学び、日本の王に中国の政治顧問を依頼した関係
3. 日本と中国が対等な立場での自由貿易を約束し、称号の交換を経済的な儀礼とした関係
4. 日本が中国の王朝に対して軍事的な圧力をかけ、金印や称号を無理やり奪い取った関係

問3　弥生時代に作られた銅鐸（どうたく）の表面には、梯子がかけられ、床が地面から高く持ち上げられた建築物の様子が描かれています。この建物が、主に収穫した米を蓄えるために用いられた名称として正しいものはどれですか。（2018年 山形県公立入試 類似）

1. 石舞台
2. 竪穴住居
3. 高床倉庫
4. 平地建物

問4　中国の歴史書である『後漢書』東夷伝には、西暦57年に倭の奴国が朝貢した際、光武帝が印綬（印とひも）を授けたという記述があります。この記述を裏付ける資料として、福岡県の志賀島で発見された「漢委奴国王」の金印について説明した文として正しいものはどれですか。（2024年 佐賀県公立入試 類似）

1. 聖徳太子が隋の皇帝に宛てた手紙の内容が、金印の表面に細かく刻まれている。
2. 正方形の台座に蛇のような形のつまみがついており、江戸時代に偶然発見された。
3. 円形の形状に鏡のような光沢があり、邪馬台国の卑弥呼が魏から授かったものである。
4. 木簡と呼ばれる細長い木の板に墨で刻まれており、当時の税制度を詳しく示している。

問5　中国大陸や朝鮮半島から九州北部へ伝わった稲作が東日本へと広まった時代、収穫を祈る祭りが重要視されるようになりました。この時代に祭りの道具として作られた、つりがねのような形をした青銅器を何と呼びますか。（2023年 長野県公立入試 類似）

1. 埴輪
2. 縄文土器
3. 銅鐸
4. 打製石器

問6　3世紀前半の倭（日本）について記した中国の歴史書である「魏志倭人伝」には、多くの小国を従えた強力な勢力の存在が記されています。この勢力の名称と、周辺の小国を連合させて治めていたとされる女王の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2026年 大阪府公立入試 類似）

1. 邪馬台国 — 卑弥呼
2. 奴国 — 卑弥呼
3. 奴国 — 持統天皇
4. 邪馬台国 — 推古天皇

問7　弥生時代に朝鮮半島から稲作が伝来したことで、縄文時代とは異なる社会状況が生まれました。生産力の向上や定住生活に伴って発生した出来事について、適切に説明しているものはどれですか。（2023年 茨城県公立入試 類似）

1. 冠位十二階が定められ、個人の才能や功績に応じて役職が与えられた。
2. 狩猟や採集が中心の生活となり、人々は獲物を求めて常に移動し続けた。
3. 収穫した稲の分配や土地の所有をめぐって、むら同士の争いが発生した。
4. 仏教が伝来し、各地で大規模な寺院の建設が始まった。

問8　佐賀県で発見された弥生時代の代表的な遺跡について述べた文として、正しいものはどれか。この遺跡は、大規模な堀や土塁を巡らせた集落の跡として知られている。（2026年 大阪府公立入試 類似）

1. 吉野ケ里遺跡では、外敵を防ぐための深い堀を巡らせた環濠集落の跡が確認されている。
2. 三内丸山遺跡では、縄文時代の大規模な定住集落跡が青森県で確認されている。
3. 登呂遺跡では、弥生時代の水田跡や木製農具が静岡県で発見されている。
4. 唐古・鍵遺跡では、奈良県において弥生時代の環濠集落や多量の木製品が見つかっている。

問9　弥生時代に大陸から稲作とともに伝わった金属器のうち、硬くて鋭利な特徴を活かして、木工具や農具、武器などの実用的な道具として広く普及したものは何ですか。（2016年 大阪府公立入試 類似）

1. 石器
2. 土器
3. 青銅器
4. 鉄器

問10　弥生時代に始まった、青銅器と鉄器の使い分けに関する背景について、正しい説明はどれですか。（2026年 北海道公立入試 類似）

1. 石器から鉄器への移行を嫌った指導者たちが、妥協案として青銅器を儀式に導入した
2. 鉄器が実用的な武器や工具に用いられる一方で、青銅器は主に集団をまとめるための祭礼や権威の象徴に特化していった
3. 青銅器は弥生時代の中頃に全て回収され、その原料はすべて鉄器の製造に再利用された
4. 青銅は鉄よりも耐久性に優れていたため、大規模な土木工事の道具としてのみ使われた

問11　弥生時代の遺跡からは、青銅器と鉄器という二種類の金属器が発見されています。鉄器が農具の刃先として普及したことが、当時の社会に与えた影響として最も適切な説明を選びなさい。（2023年 大阪府公立入試 類似）

1. 青銅器よりも希少価値が高かったため、王の権威を示すための宝物としてのみ扱われた。
2. 農具が重くなったことで、小規模な家族単位での農業が不可能になった。
3. 石器に比べて加工が簡単だったため、各家庭で容易に自給できるようになった。
4. 土地の開墾や耕作が容易になり、食料である米の生産力が向上した。

問12　3世紀の中国の歴史書である『魏志倭人伝』には、当時の日本（倭）の様子が記されています。それによると、倭ではもともと男子を王としていましたが、国が乱れて互いに攻め合う状態が数年続きました。この混乱を収めるためにとられた歴史的な経緯として正しいものはどれですか。（2020年 徳島県公立入試 類似）

1. 一人の女性を王として共立し、国をまとめさせた
2. 狗奴国の王が武力によって全ての小国を制圧した
3. 中国の魏から派遣された総督が直接統治を行った
4. 仏教を国教として導入し、人々の信仰によって乱れを鎮めた

問13　弥生時代に使用された道具とその背景について述べた文として、正しいものはどれですか。（2024年 山口県公立入試 類似）

1. 収穫の効率を上げるために、鉄製の鎌を用いて稲の根元から刈り取る方式がこの時代に確立した。
2. 金属器のうち、青銅器は主に木材を加工するための工具として、鉄器は祭祀用の宝物として使い分けられた。
3. 牛や馬を農作業に利用する牛馬耕が導入されたことで、大規模な水田開発が全国で一斉に進んだ。
4. 稲作が始まった当初は木製の農具が中心であったが、次第に大陸から伝わった鉄器なども使われるようになった。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 稲作が普及したことで、収穫した食料の貯蔵や煮炊きといった生活道具としての使いやすさが重視されるようになったから。	弥生時代には本格的な稲作が始まり、収穫した穀物を保存するための「壺」や、煮炊きのための「甕（かめ）」、盛り付けのための「高杯（たかつき）」など、用途に応じた器が作られました。そのため、縄文土器のような装飾性よりも、薄くて軽く、用途に適した機能的な形状へと進化しました。
問2	答え 1 中国の皇帝に臣下として礼を尽くすことで、自らの支配権の正統性を認めてもらう関係	1世紀には奴国の王が後漢の光武帝から金印を授かり、3世紀には邪馬台国の卑弥呼が魏から「親魏倭王」の称号と金印などを授かりました。これらは、中国の皇帝から「位」を認めてもらうことで、国内の他の勢力に対して自らの権威を誇示しようとした外交の形を証明しています。
問3	答え 3 高床倉庫	弥生時代には本格的な稲作が始まり、収穫した米を保存するための専用の建物が造られました。銅鐸などの表面に描かれた当時の絵画からも、梯子を使って登る床の高い建物の存在が確認されています。居住用の竪穴住居とは区別して使われていました。
問4	答え 2 正方形の台座に蛇のような形のつまみがついており、江戸時代に偶然発見された。	福岡県の志賀島で発見された金印は、一辺が約2.3cmの正方形の台座に、蛇がとぐろを巻いたような形のつまみ（蛇鈕）がついています。これは当時の中国（後漢）が、周辺地域の支配者に授けた印の形式と一致しており、1世紀の日本と中国の交流を証明する貴重な物証となっています。
問5	答え 3 銅鐸	稲作が普及した弥生時代には、青銅器の製造技術も伝わりました。銅鐸は、主に豊作を祈るための祭祀用具として使われた特徴的な遺物です。一方、打製石器や縄文土器は稲作普及以前の縄文時代に主に使われていたものです。
問6	答え 1 邪馬台国 ― 卑弥呼	2世紀後半から続いた倭国の大きな戦乱を収めるため、複数の小国の王たちによって卑弥呼が女王として擁立されました。この連合勢力が邪馬台国です。1世紀に後漢へ使者を送り「漢委奴国王」の金印を授かったのは奴国（なこく）の王であり、卑弥呼とは時代や状況が異なります。
問7	答え 3 収穫した稲の分配や土地の所有をめぐって、むら同士の争いが発生した。	稲作の開始により、安定した食料生産が可能になり定住が進んだ一方で、水利権や肥沃な土地、蓄えられた稲をめぐる対立が生まれました。当時の遺跡からは、戦いに備えて集落の周囲に深い堀を巡らせた「環濠集落」や、木製の武器、矢じりが刺さった人骨などが発見されており、組織的な紛争があったことが分かります。
問8	答え 1 吉野ヶ里遺跡では、外敵を防ぐための深い堀を巡らせた環濠集落の跡が確認されている。	吉野ヶ里遺跡は佐賀県に位置し、弥生時代の全期間を通じて存在した国内最大級の環濠集落です。二重の堀や物見櫓、Ｖ字状に深く掘られた溝などが確認されており、当時の社会に争いがあったことを示しています。奈良県の唐古・鍵遺跡と場所を混同しないよう注意が必要です。
問9	答え 4 鉄器	大陸から伝わった金属器には鉄器と青銅器がありますが、その性質の違いによって用途が分かれていました。青銅器が主に祭りや儀式の道具として用いられたのに対し、鉄器は木材を加工する工具や、土地を耕すための農具、戦いのための武器といった実用的な用途で使われました。これにより食料の生産力が大幅に向上しました。
問10	答え 2 鉄器が実用的な武器や工具に用いられる一方で、青銅器は主に集団をまとめるための祭礼や権威の象徴に特化していった	弥生時代の日本において、金属器は「実用の鉄」と「祭祀の青銅」という二面的な使い分けがなされていました。稲作の普及に伴って集団が大きくなると、人々をまとめ上げるための儀式や、その集団の頂点に立つ指導者の権威が必要となりました。そのため、美しく加工しやすい青銅器は、実用性よりも、見る人を圧倒するような象徴的な価値を求められるようになったのが大きな背景です。
問11	答え 4 土地の開墾や耕作が容易になり、食料である米の生産力が向上した。	鉄は青銅よりも非常に硬いため、木製の農具の先端に装着することで、硬い土を掘り起こしたり森林を切り拓いたりすることが可能になりました。これにより耕作面積が拡大し、農業の生産性が飛躍的に高まりました。一方、祭祀用として重宝されたのは、鉄器ではなく主に青銅器（銅鏡や銅鐸など）の方でした。
問12	答え 1 一人の女性を王として共立し、国をまとめさせた	当時の倭（日本）では、小国同士が激しく争う「倭国大乱」と呼ばれる時期がありました。この混乱を収拾するため、複数の小国が連合し、まじないや宗教的な権威を持つ卑弥呼を女王として立てることで国内の安定を図ったことが『魏志倭人伝』に記されています。
問13	答え 4 稲作が始まった当初は木製の農具が中心であったが、次第に大陸から伝わった鉄器なども使われるようになった。	弥生時代には大陸から鉄器と青銅器がほぼ同時に伝わりました。鉄器は主に工具や農具などの実用品として、青銅器は銅鐸や銅鏡のように祭祀・儀式用の宝物として用いられました。稲の収穫には主に石包丁が使われ、穂の部分のみを摘み取る「穂首刈り」が行われていました。牛馬耕が普及するのは平安時代以降のことです。